

19年度中間決算 決算説明資料

2019年8月 タダノは創業100周年を迎えました。

※予測に関する注意事項

・本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。

2019年10月
株式会社タダノ

Tadano Ltd.

◇本年7月31日にDemag事業の買収が完了しました。本資料におけるDemag事業の取り扱いは以下のとおりです。

- ・19年度中間連結財務諸表:貸借対照表を含んでおります。
- ・19年度通期業績予想:19年8月～12月の5か月分の損益計算書を含んでおります。
- ・需要数値:クローラクレーンは含んでおりません。
- ・シェア:Demag製品を含んでおりません。

- 【会社名】 株式会社タダノ(1948年8月24日設立)創業者 多田野 益雄
1955年国内初の油圧式トラッククレーンを開発
- 【代表者】 代表取締役社長(CEO)多田野 宏一
- 【本社】 香川県高松市新田町甲34番地
- 【主な事業】 建設用クレーン、車両搭載型クレーン、高所作業車の製造販売
- 【事業所】 東京事務所[墨田区]、高松工場[高松市]、志度工場[さぬき市]、香西工場[高松市]、多度津工場[多度津町]、千葉工場[千葉市]
- 【拠点】 (日本)10支店、23営業所
(海外)北京事務所[中国]、中東事務所[UAE]、モスクワ事務所[ロシア]、バンコク事務所[タイ]
- 【資本金】 13,021百万円 【株式】発行済 129百万株 株主数 8,835人(19年9月末)
- 【売上高】 188,451百万円(18年度)
- 【従業員数】 連結 3,461人、単独 1,445人(19年9月末) * Demag事業1,731人は左記には含まず
- 【関係会社】 子会社 38社 関連会社 2社 * Demag事業取得により子会社が8社・関連会社が1社増加
 日本(計11社)
 ㈱タダノアイメス ㈱タダノアイレック ㈱タダノエステック 他8社
 欧州(計13社)
 タダノ・ファウンGmbH タダノ・デマーグGmbH [独] 他11社
 北米(計3社)
 タダノ・アメリカCorp. タダノ・マンティスCorp. [米] 他1社
 その他(計11社)
 タダノ・アジアPte.Ltd.[シンガポール] タダノ・オセアニアPty Ltd [オーストラリア]
 タダノ・エスコーツ・インディアPvt.Ltd. [インド] タダノ・タイランドCo.,Ltd.[タイ] 他7社

19年度中間決算のポイント

(単位:百万円)

	18年度中間期		19年度中間期		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	82,272	100.0%	100,304	100.0%	21.9%
営業利益	5,743	7.0%	7,573	7.6%	31.9%
経常利益	5,673	6.9%	7,262	7.2%	28.0%
親会社株主 当期純利益	4,081	5.0%	5,064	5.0%	24.1%

	18年度中間期	19年度中間期
設備投資額	6,595百万円	9,852百万円
減価償却費	1,432百万円	1,588百万円
為替レート(USD)	108.68円	110.05円
為替レート(EUR)	131.64円	124.32円

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

※為替レートは1-6月期中平均レート(海外子会社12月決算のため)

⇒19年度中間期設備投資の内、香西工場関連は7,135百万円

【19年度の経営方針】

- ①コアバリューの追求「安全・品質・効率」
- ②中期経営計画(17-19)最終年度の仕上げと次期中計の策定
- ③「赤い矢印」への集中と「黄色い矢印」への取り組み
- ④「青い矢印」の揺れへの備え(両様の構え)と競争激化への対応

◆4年振りの増収増益

◆売上高は4年振りの1,000億円超え

◆日本向け売上高、海外向け売上高ともに増加

⇒日本向け売上高 444億円 → 541億円(+21.9%)
 建設用クレーン・車両搭載型クレーン・高所作業車が揃って増加。

中間連結決算開始以降、過去最高。

⇒海外向け売上高 378億円 → 461億円(+21.9%)
 欧州を除くすべての地域で増加。

◆海外売上高比率 46.0% → 46.0%

◆営業利益率 7.0% → 7.6%

営業利益	57億円	→	75億円
経常利益	56億円	→	72億円
当期純利益	40億円	→	50億円

(単位:百万円)

	18年度中間期		19年度中間期		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	82,272	100.0%	100,304	100.0%	18,031
売上原価	60,382	73.4%	74,195	74.0%	13,813
割賦販売利益	121	0.1%	-56	-0.1%	-178
売上総利益	22,011	26.8%	26,051	26.0%	4,039
販管費	16,267	19.8%	18,478	18.4%	2,210
営業利益	5,743	7.0%	7,573	7.6%	1,829
営業外損益	-70	-0.1%	-310	-0.3%	-240
経常利益	5,673	6.9%	7,262	7.2%	1,589
特別損益	-3	-0.0%	476	0.5%	479
税引前当期純利益	5,669	6.9%	7,739	7.7%	2,069
法人税等	1,569	1.9%	2,684	2.7%	1,115
非支配株主当期純利益	19	0.0%	-9	0.0%	-29
親会社株主当期純利益	4,081	5.0%	5,064	5.0%	982

【増減のポイント】

◆売上原価率 73.4% → 74.0%

- ・売価の維持改善・コストダウンによる原価低減に努めるも、コストアップ・製品構成の変化により売上原価率は前年同期比0.6%ポイント悪化。

◆販管費 2,210百万円増加

- ・変動費増加 + 538百万円
- ・人件費増加 + 173百万円
- ・その他諸経費増加 + 1,498百万円

◆営業外損益

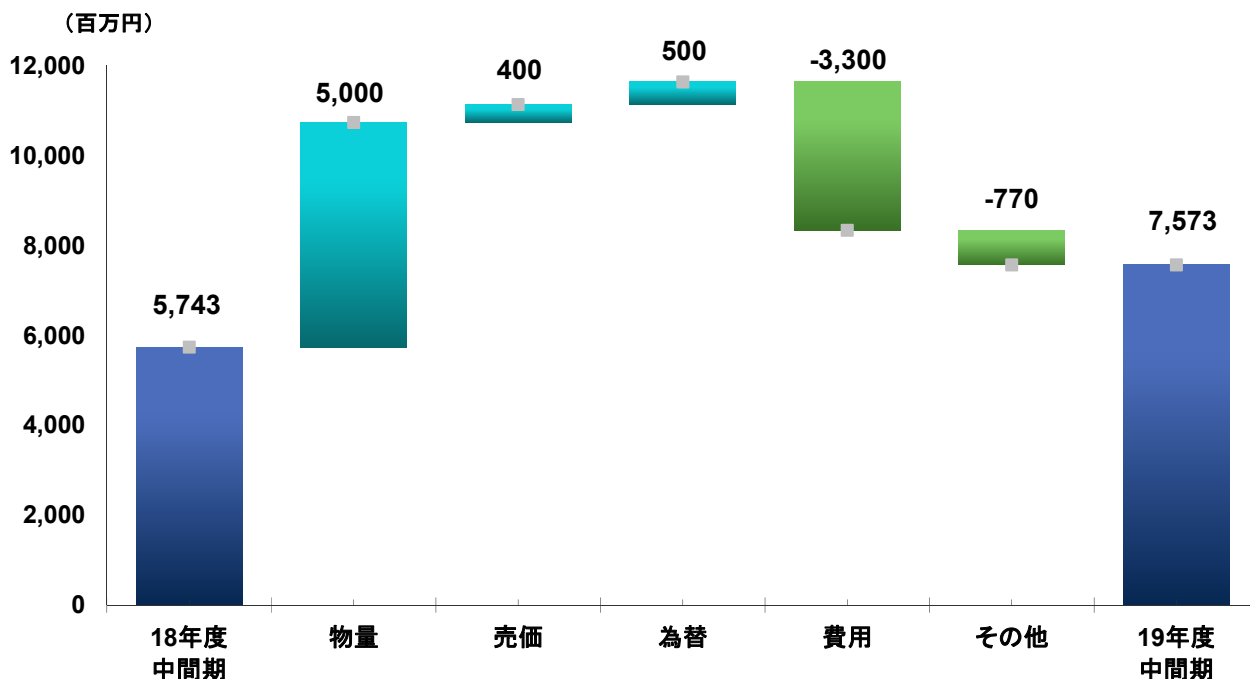
- ・営業外収益 178百万円 → 192百万円
- ・営業外費用 249百万円 → 503百万円

◆特別損益

- ・特別利益 6百万円 → 492百万円
 - ・特別損失 9百万円 → 16百万円
- ※負ののれん発生益487百万円を特別利益にて計上

損益計算書 (営業利益の増減要因)

売上が増加し、営業利益は18億円の増加。



(単位:百万円)

	18年度末		19年中間期末		比較増減	Demag事業(内数)
	金額	比率	金額	比率		
手許資金	65,952	25.8%	77,441	24.4%	11,489	2,496
売上債権	50,836	19.9%	52,187	16.4%	1,350	6,578
たな卸資産	62,757	24.5%	96,486	30.4%	33,729	27,938
その他	6,610	2.6%	6,994	2.2%	384	1,444
流動資産計	186,156	72.8%	233,109	73.4%	46,953	38,458
有形固定資産	52,597	20.5%	65,967	20.8%	13,370	4,461
無形固定資産	1,703	0.7%	1,854	0.6%	150	198
投資その他の資産	15,336	6.0%	16,602	5.2%	1,265	-16,287
固定資産計	69,637	27.2%	84,424	26.6%	14,787	-11,627
資産合計	255,793	100.0%	317,534	100.0%	61,740	26,830
仕入債務	41,792	16.3%	44,652	14.0%	2,860	6,210
有利子負債	30,165	11.8%	69,124	21.8%	38,958	1,321
その他	28,810	11.3%	46,622	14.7%	17,811	18,767
負債計	100,768	39.4%	160,399	50.5%	59,630	26,299
純資産計	155,025	60.6%	157,135	49.5%	2,109	531
負債・純資産計	255,793	100.0%	317,534	100.0%	61,740	26,830

【増減のポイント】

◆**売上債権は増加 508億円 → 521億円**
(521億円のうちDemag事業分65億円)

⇒売上債権回転期間は改善

(18年度中間 87.2日/18年度 98.5日
→ 19年度中間 83.2日)

※19年度中間の回転日数はDemag事業を除いて計算

◆**たな卸資産は増加 627億円 → 964億円**
(964億円のうち

TFG分202億円・Demag事業分279億円)

⇒たな卸資産回転期間は悪化

(18年度中間 139.0日/18年度 121.5日
→ 19年度中間 125.1日)

※19年度中間の回転日数はDemag事業を除いて計算

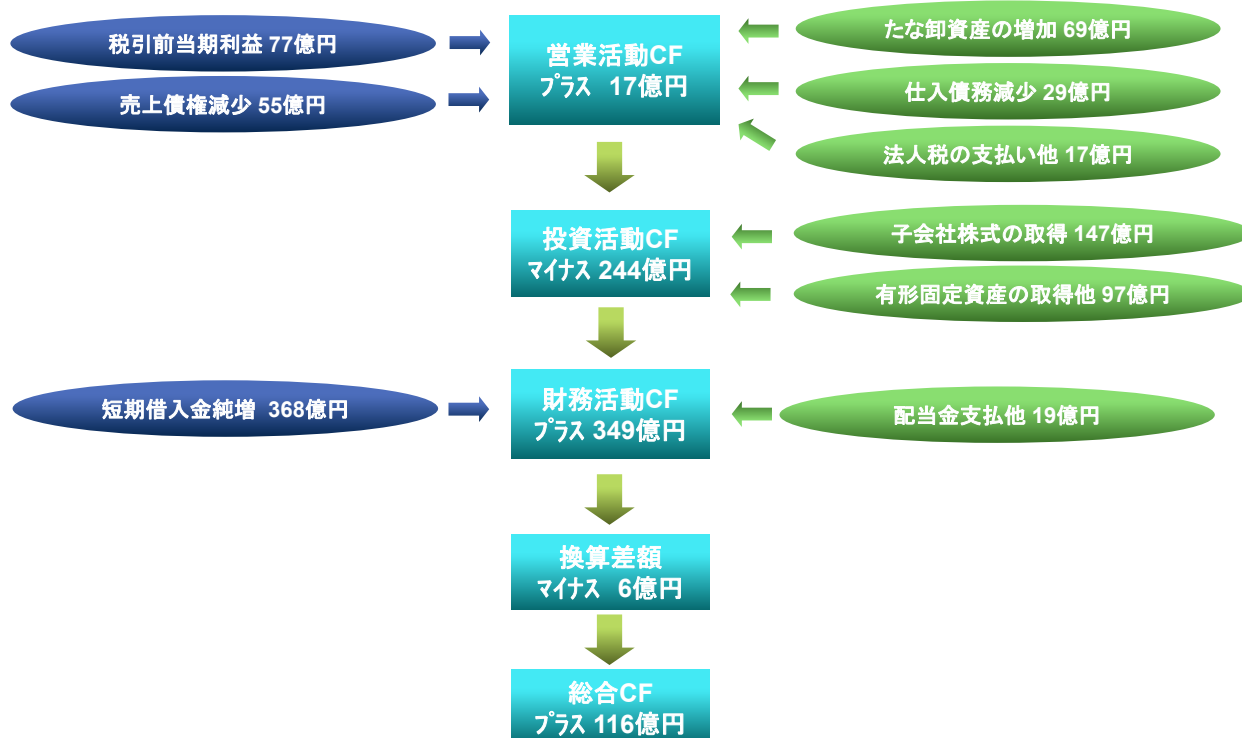
◆**有利子負債は増加 301億円 → 691億円**

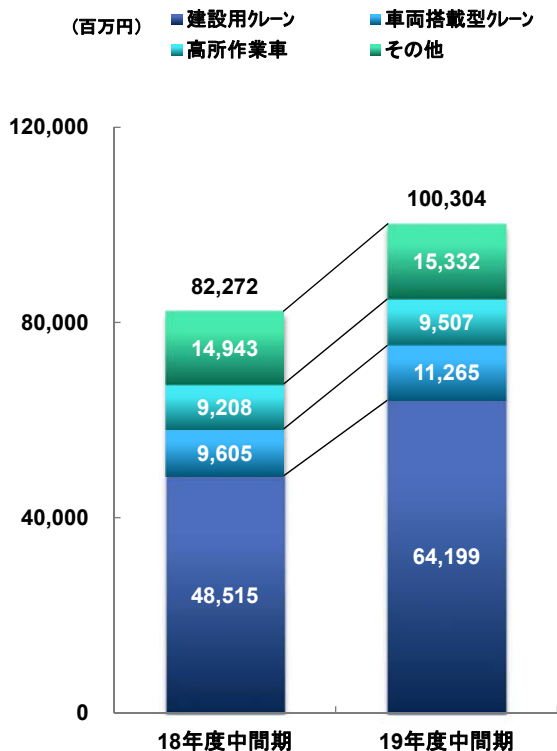
⇒短期 361億円増加 長期 27億円増加

※Demag事業買収資金及び増資資金等をブリッジローンにて356億円借入

キャッシュ・フローの概要

財務活動キャッシュ・フローの増加により、総合キャッシュ・フローは116億円の増加。





(単位: 百万円)

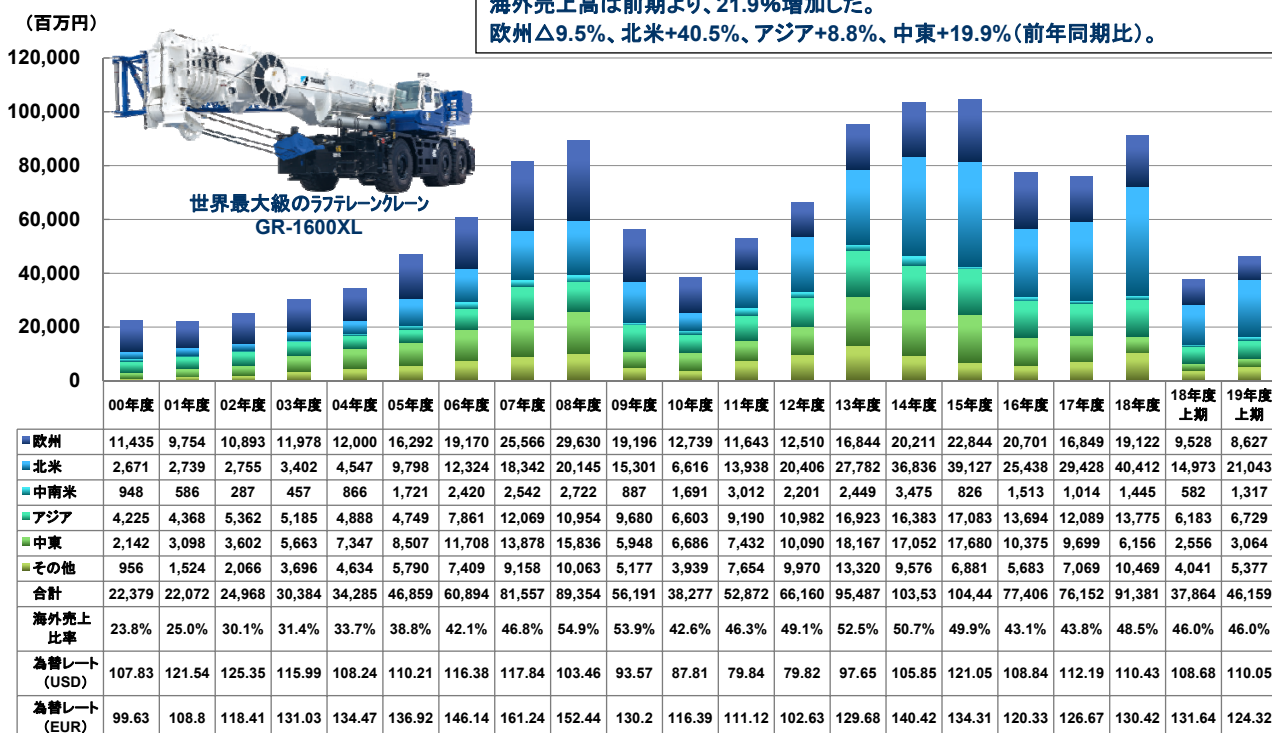
	18年度中間期		19年度中間期		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	48,515	59.0%	64,199	64.0%	15,683	32.3%
車両搭載型クレーン	9,605	11.7%	11,265	11.2%	1,659	17.3%
高所作業車	9,208	11.2%	9,507	9.5%	299	3.3%
その他	14,943	18.1%	15,332	15.3%	388	2.6%
合計	82,272	100%	100,304	100%	18,031	21.9%

◆海外売上高比率 46.0% → 46.0%

※建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

日本	17,915	24,984	7,069	39.5%
海外	30,600	39,214	8,614	28.2%

海外仕向地別売上高推移

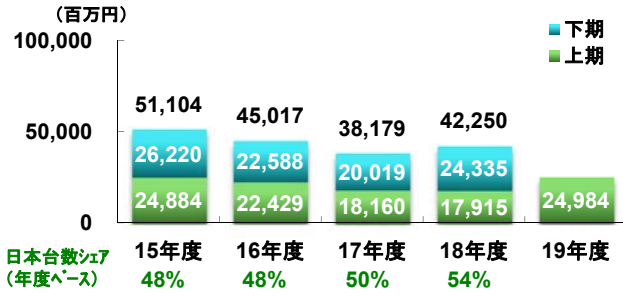


※・その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。

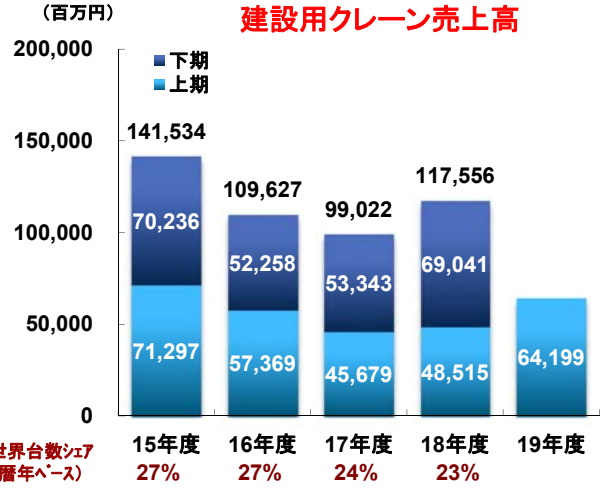
・為替レートは期中平均レート(海外子会社12月決算のため、通期1-12月平均・中間期1月-6月平均)

・01年度以前はDMをEURに換算したものを表示しております。

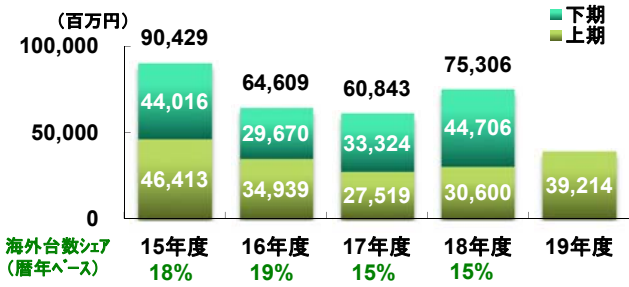
建設用クレーン売上高(日本)



建設用クレーン売上高

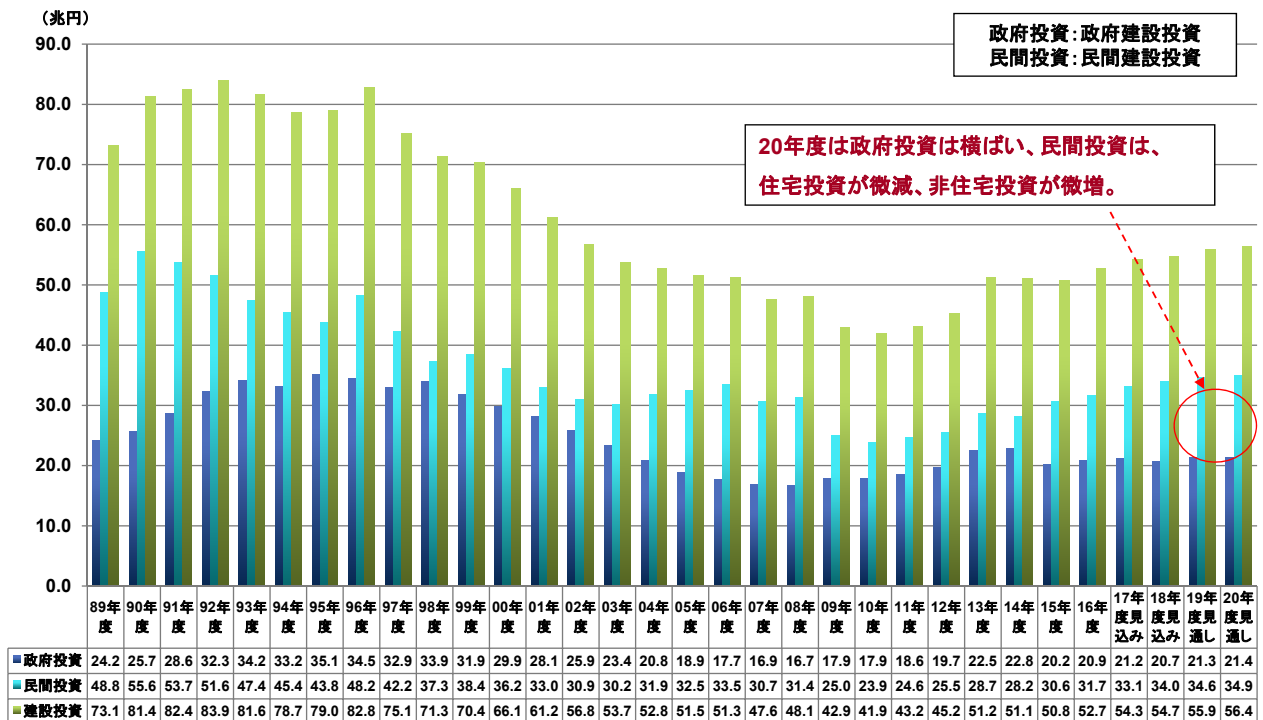


建設用クレーン売上高(海外)

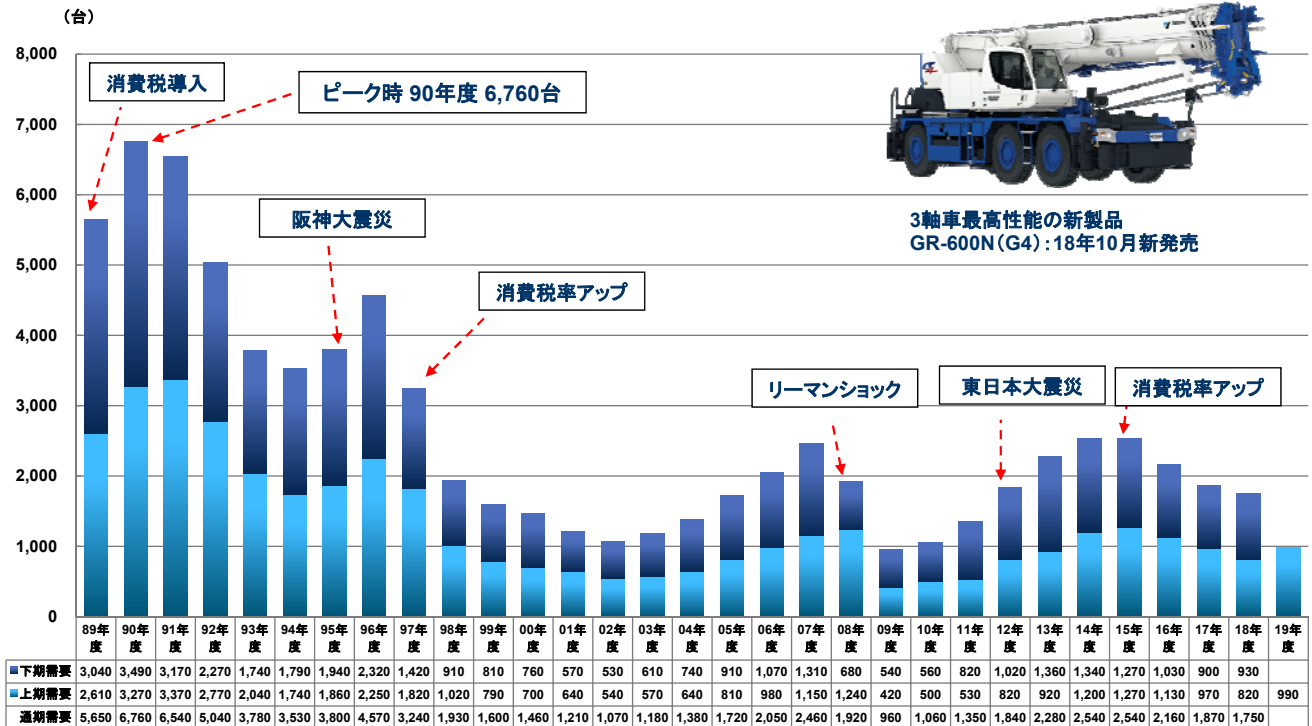


※シェアは小数点以下を四捨五入

日本建設投資の推移と見通し



※ 数字はすべて名目建設投資。予測は、建設経済研究所の「建設投資の見通し」(19年9月26日発表)による。



※ 数字は当社調べ。
※ 需要数値は10台単位に四捨五入。

建設用クレーン

日本シェア 53%→53% ※シェアは小数点以下を四捨五入、需要数値は10台単位に四捨五入。

油圧式建設用クレーン日本総需要 990台(19年度中間、当社調べ) 前年同期比21%増

⇒需要が増加する中、大型機種への拡販に注力。トン数シェア742%→55%

日本向け売上高は249億8千4百万円(前年同期比 139.5%)

【ラフテレーンクレーン】

- ・日本建設用クレーンの中心機種
日本総需要の94%(北米総需要の51%)
- ・市街地の建築工事に欠かせない都市型クレーン
コンパクトな車体で、狭小地でも性能発揮
(前輪、後輪共にステアリング可能)
- ・クレーンの運転席と自動車の運転席が兼用
- ・日本向け13~100t吊り 8機種(タノ製造)
海外向け13~145t吊り 11機種(タノ製造、印TEI製造)
- ・全19機種中16機種に動態管理システム搭載
GR-1000N(G4)
- ・日本は一般道走行
北米はトレーラー輸送



【オールテレーンクレーン】

- ・日本では都市開発、高架・橋梁工事向けの大型クレーン
日本総需要の6%
(欧州総需要の88%)
- ・遠距離走行性に加え
小回り性にも優れる。
(ステアリングに特徴)
- ・海外向け40~400t吊り 13機種(独TFG製造)
- ・日本向け100~550t吊り 7機種(独TFG製造、タノ製造)
- ・全20機種中14機種に動態管理システム搭載
- ・Demagブランド:40~1200t吊り 15機種
- ・日本での一般道走行時には分解搬送が必要
欧州では分解走行不要



【トラッククレーン】

- ・走行性に優れたトラックに架装したクレーン。日本総需要は数万台、主に海外向け
- ・遠距離走行性に優れる。
- ・日本向け13～35t吊り3機種(タダノ製造) ・海外向け30～75t吊り6機種(タダノ・独TFG製造)
- ・全9機種中5機種に動態管理システム搭載



GT-600EL

【クローラクレーン】

- ・無限軌道式履帯(クロー)を装備した走行体に架装したクレーン。
- ・不整地や地盤が軟弱な現場で機動性に優れる。
- ・現場間の移動はトレーラーなどでの搬送が必要。


 CC-3800-1
 (ラチスブーム式)

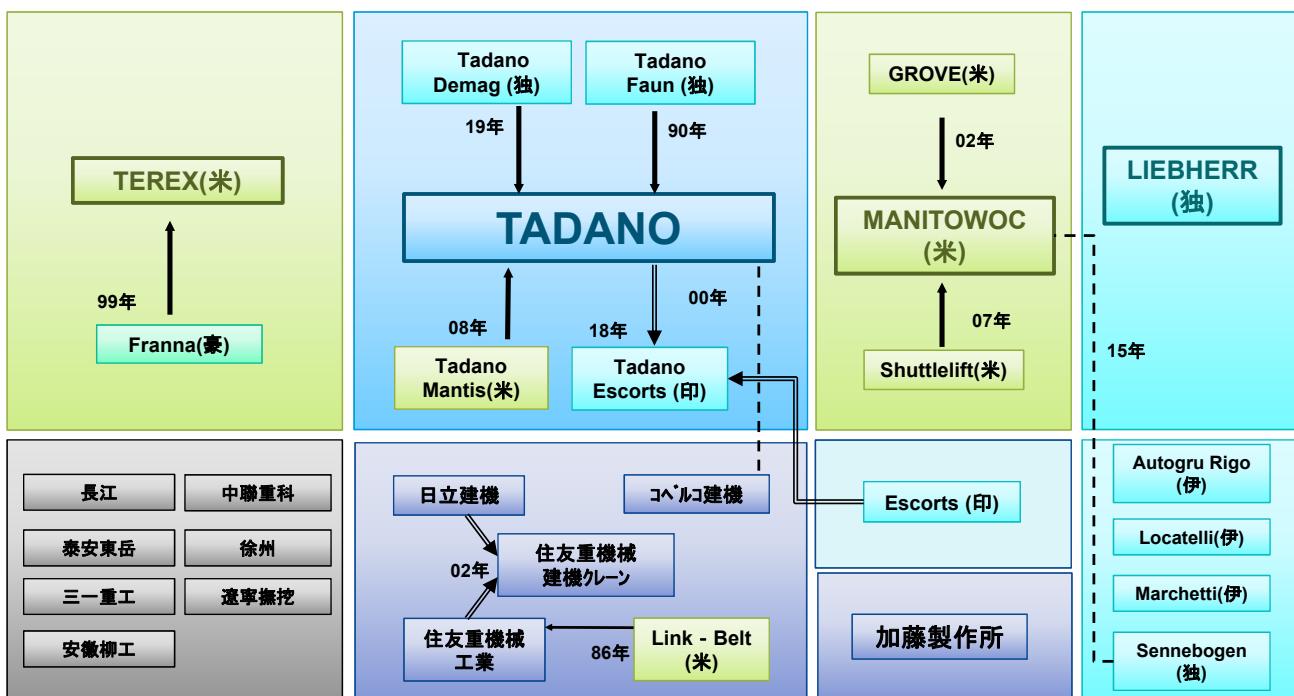
ラチスブーム式

- ・橋梁、風力発電、プラントなどの大型構造物の建設に使用される。
- ・海外、日本向け 400～3200t吊り 7機種 をDemagブランドで展開(独TDG製造)

伸縮ブーム式

- ・土木、建設工事に使われ、不整地や泥濘地、トンネル内での作業などに使用される。
- ・海外向け 27～120t吊り 11機種(米TMC製造)

クレーン業界図(油圧式クレーンメーカー・クローラクレーンメーカー)

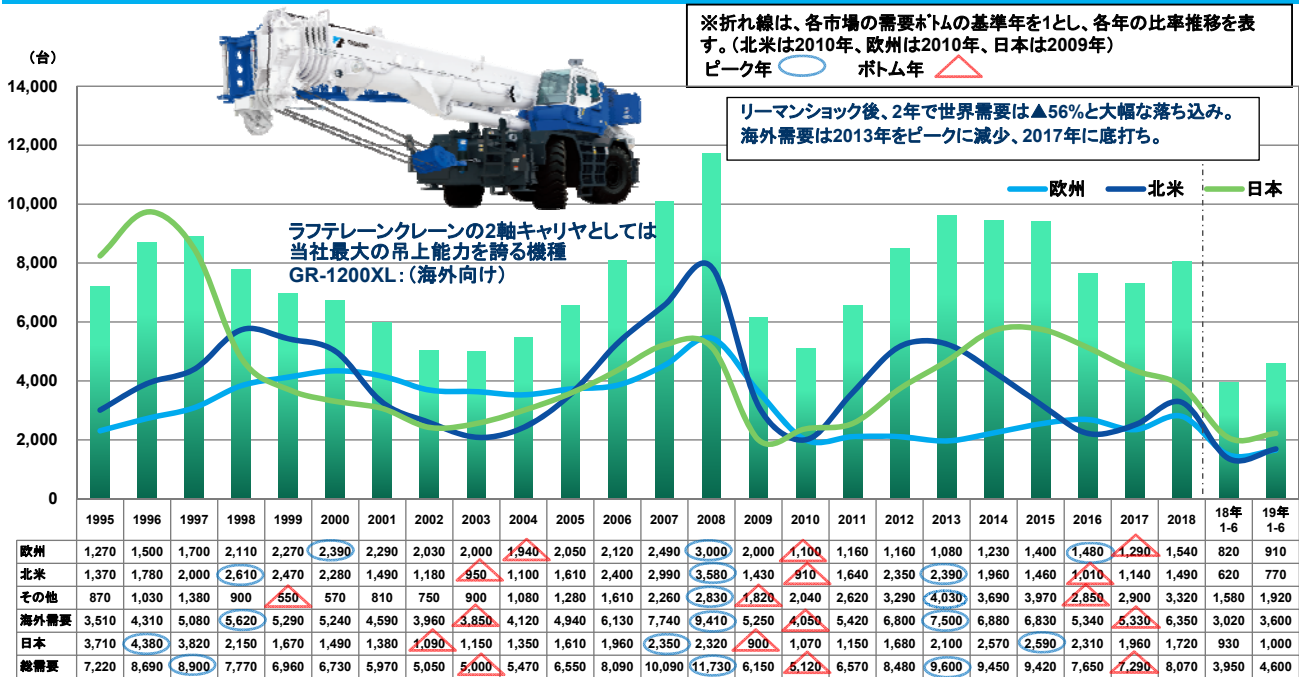


徐州=XCMG Xuzhou Construction Machinery Group,
 中聯重科=Zoomlion、三一重工=Sany、安徽柳工=Liugong

* 日本建設機械工業会資料より、当社作成

→ 買収を示す。(数値はその年度)
 - - - 提携を示す。(数値はその年度)
 ⇨ 出資・JVを示す。

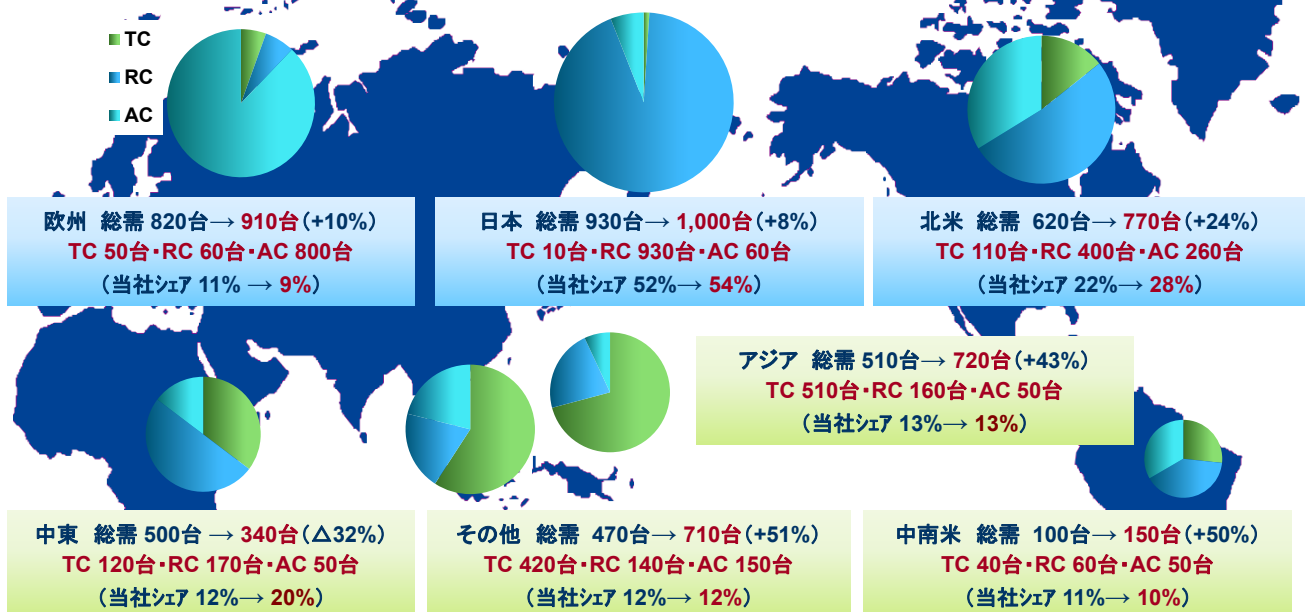
建設用クレーンの世界総需要推移(暦年ベース)



- クローラークレーンは上記に含まず。
- ロシア国産は上記に含まず。
- 2010年以降、中国国産の輸出を含む。
中国国産の中国市場向けは上記に含まず。中国市場における中国国産の総需要推移は次の通り。
2011年約3万5千台、2012年約2万2千台、2013年約1万7千台、2014年約1万4千台、2015年約9千台、2016年約9千台、2017年約2万台、2018年約3万2千台
※数値は、当社推計。需要数値は10台単位に四捨五入。

建設用クレーン 地域別需要機種構成(暦年ベース)

世界シェア 23%→24%
油圧式建設用クレーン 世界総需要 3,950台→4,600台 (19年1-6月、当社調べ) 前年同期比 16%増



- クローラークレーン需要は上記に含まず。TCはトラッククレーン、RCはラフテレーンクレーン、ACはオールテレーンクレーンを表す。その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。台数・シェアは、前期からの変化を示す。
- 中国国産の中国市場向けは上記に含まず。ロシア国産は上記に含まず。
*数値は、当社推計。需要数値は10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入。

<欧州事業の課題>

欧州事業の黒字化
TFGとTDGによるシナジー創出
欧州でのシェアアップと欧州域外への拡販

●欧州グループ会社の概要

【Tadano Faun GmbH】

90年に買収、資本金:45百万EUR 当社100%出資
所在地:ドイツ Lauf a.d. Pegnitz
事業内容:オールテレーンクレーン・トラッククレーンの開発・製造・販売
代表者:社長 澤田 憲一、従業員:654人
売上高の推移:
13年:313百万EUR/329台、14年:308百万EUR/347台、15年:304百万EUR/376台
16年:319百万EUR/363台、17年:279百万EUR/311台、18年:313百万EUR/361台



【Tadano Demag GmbH】

19年に買収、資本金:20百万EUR 当社100%出資
所在地:ドイツ Zweibrücken
事業内容:オールテレーンクレーン・クローラクレーンの開発・製造・販売
代表者:社長 Jens Ennen、従業員:1,567人
売上高の推移 (当該買収に関連するDemag事業) :
15年:631百万USD、16年:494百万USD、17年:470百万USD、18年:487百万USD
(上記、売上高はTerex社より提供された未監査の数字)



<北米事業の課題>

ポジションアップ

●北米グループ会社の概要

【Tadano America Corp.】

資本金:2.5百万USD TAH社100%出資 所在地:米国 Houston
事業内容:建設用クレーンの販売
代表者:社長 Ingo Schiller
従業員:92人
売上高の推移:13年262百万USD、14年 305百万USD、15年 285百万USD
16年206百万USD、17年 230百万USD、18年 330百万USD



【Tadano Mantis Corp.】

08年に買収、資本金:287千USD TAH社100%出資
所在地:米国 Franklin、
事業内容:伸縮ブーム式クローラクレーンの製造・販売
代表者:社長 吉田 耕三
従業員:151人
売上高の推移:13年 36百万USD、14年 30百万USD、15年 40百万USD
16年 27百万USD、17年 36百万USD、18年 44百万USD



Opti-Width機能と傾斜地での作業性が高評価
米国Lift and Access誌2017年度
LLEAP*クレーン部門Silver Award受賞
*LLEAP: Leadership in Lifting Equipment and Aerial Platforms

※TAH社は、TADANO America Holdings,Inc.の略。

＜その他地域での課題＞
中国メーカーの台頭

●その他地域のグループ会社の概要

【Tadano Asia Pte. Ltd.】

設立：96年8月
資本金：1,000千SGD
出資比率：当社 80%、Multico Infracore Holdings Pte. Ltd. 20%
所在地：シンガポール
事業内容：建設用クレーンの販売・サービス
代表者：社長 林 宏三 従業員：17人

【Tadano Oceania Pty Ltd】

設立：10年2月
資本金：7,500千AUD 当社 100%出資
所在地：オーストラリア Darra
事業内容：建設用クレーンの販売・サービス
代表者：社長 Anthony Grosser 従業員：52人

【Tadano Escorts India Pvt. Ltd.】

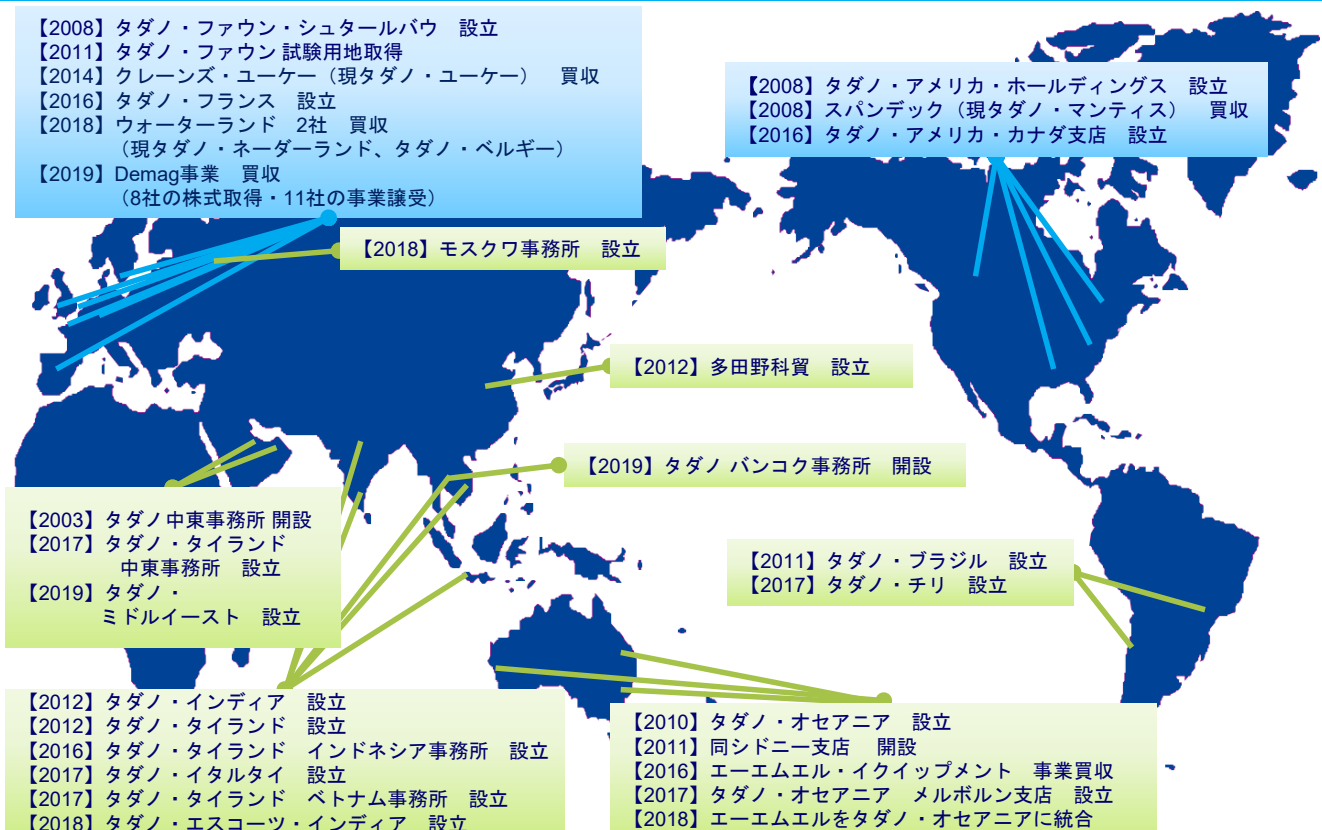
設立：18年12月
資本金：600,000千INR 当社 51%出資、Escorts Ltd. 49%
所在地：インド Faridabad
事業内容：建設用クレーンの開発・製造・販売・サービス
代表者：社長 中山 哲 従業員：56人



GT-750EL

海外展開の加速 (2003年以降)

～ 30社設立・買収、14拠点新設
うち、3社撤退、2社・2拠点移転



【カーゴクレーン】日本シェア 49%→48%

日本総需要 8,380台 (19年度中間、当社調べ) 前年同期比10%増

⇒安全装置法制化と小型トラックの排ガス規制による駆け込み需要により、
売上高は、112億6千5百万円 (前年同期比 117.3%)

- ・通常のトラックに架装した小型クレーン、貨物の積載・運搬・設置作業等が1台で可
- ・物流用途、造園業や建設業用途、トラックディーラーの間接販売
- ・小型・中型・大型トラック架装用に多数の機種 0.49t～15t吊り

- ～関係省庁～
 - ・主に厚生労働省(クレーンの規制)
- ～主な販売先と特徴～
 - ・トラックディーラー
 - ・トラック需要に左右される傾向



ZX360/300 series

安全装置「過負荷防止装置」を標準装備



SS-38F

スライドキャリア(車輛運搬車)

(海外展開)

- ・カーゴクレーンの戦略市場向け輸出に注力。クレーン部を輸出し、現地にてトラックに架装。

18年度上期売上:8.0億円 → 19年度上期売上:8.5億円

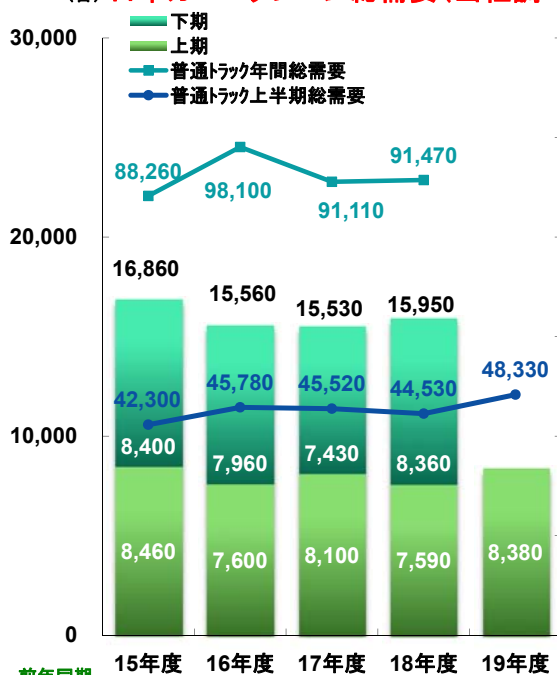
- ・12年4月タイに製造子会社を設立し、海外展開を加速。



ZR560

輸出カーゴクレーンZR560

(台) 日本カーゴクレーン総需要(当社調べ) (台)

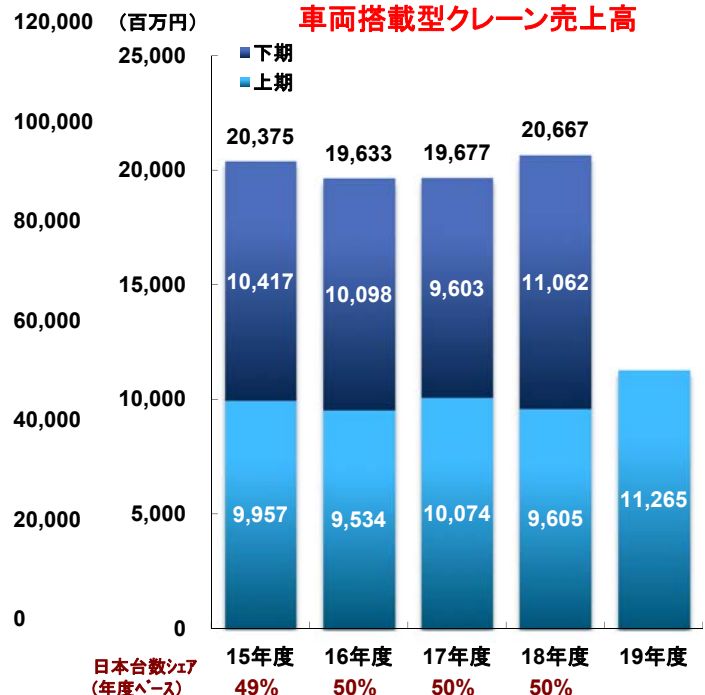


前年同期増減率 (年度ベース)

15年度 △4%
16年度 △8%
17年度 △0%
18年度 +3%

※ 需要数値は10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入。

車両搭載型クレーン売上高



【Tadano Italthai Co., Ltd.】

資本金:50百万THB (出資比率 当社 49%、ITI社 48%、MHCB社 3%)

設立:17年5月

所在地:タイ Bangkok、事業内容:カーゴクレーンの販売

代表者:社長 伊賀 英俊、従業員:9人



タイ工場で生産のカーゴクレーン ZT1000

【Tadano (Thailand) Co.,Ltd.】

資本金:636百万THB 当社100%出資 設立:12年4月(13年6月操業開始)

所在地:タイ Rayong、事業内容:カーゴクレーンの製造・販売

生産能力:1,000台/年 (販売台数:14年 258台、15年 418台、16年 385台、17年 381台、18年度 407台)

代表者:社長 三谷 俊祐、従業員:51人

- 車両搭載型クレーンの初の海外生産拠点。本製造子会社設立により、海外展開をさらに加速させるとともに、収益性の向上を目指す。



Tadano(Thailand)
工場内



Tadano(Thailand)

日本シェア 36%→35%

トラック搭載タイプ日本総需要 3,000台 (19年度中間、当社調べ) 前年同期比26%増

⇒ 小型トラックの排ガス規制による駆け込み需要の中、インフラ点検補修用途及び通信業界向け機種の上売りが減少、レンタル業界向けの上売りが増加し、売上高は、95億7百万円(前年同期比 103.3%)

[トラック式]

- ・通信用 5機種、電工用 3機種
- ・一般工事用 13機種

[ホイール式] 2機種

[スーパーデッキ] 5機種 (高度な制御技術を装備)

[ブリッジチェッカー] 3機種 (高架道路や橋梁点検用)

- ・全31機種中25機種に
動態管理システム搭載



ブリッジチェッカー BT-200

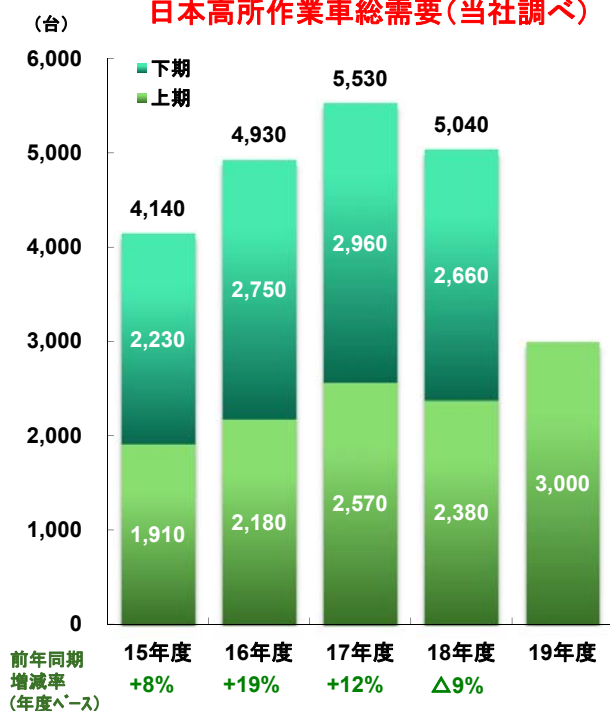
～関係省庁～

- ・主に厚生労働省(高所作業車の規制)

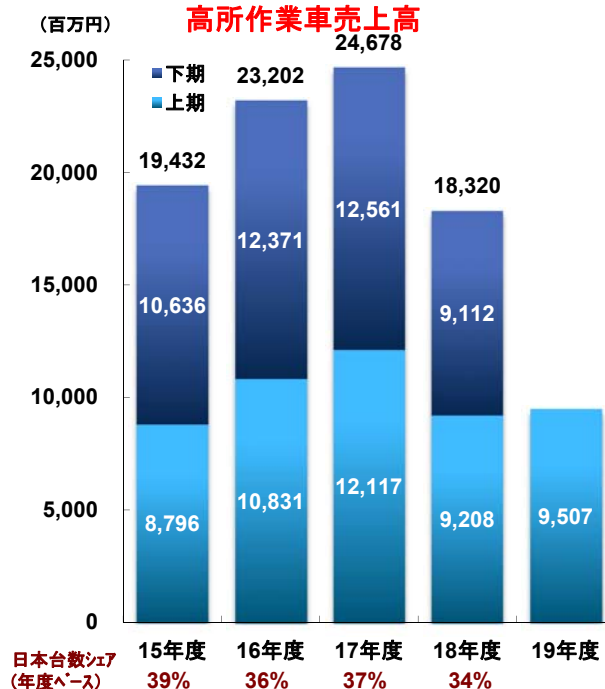
～主な販売先と特徴～

- ・電力電工、通信、レンタル、一般、造船、国土交通省

日本高所作業車総需要(当社調べ)



高所作業車売上高



※ 需要数値は10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入。

⇒ 部品、修理、中古車等のその他売上高は、153億3千2百万円（前年同期比 102.6%）

【中古クレーン】

- ・当中間期は、日本向け、海外向けともに減少。
- ・今後はグローバル化に注力。

【部品修理】

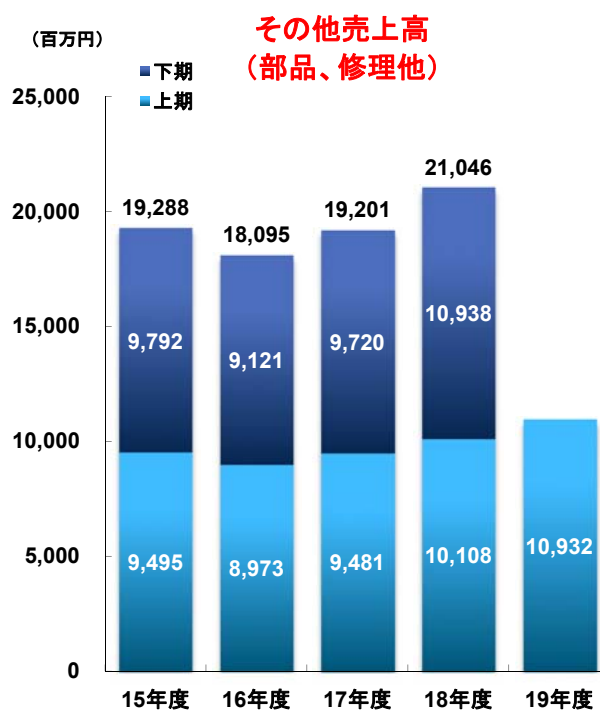
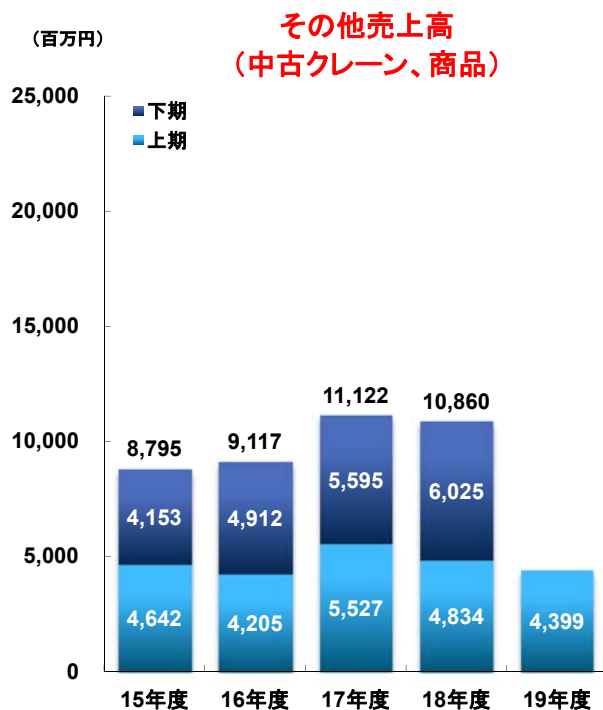
- ・当社は、修理用の部品売上を計上
（修理は、主に指定サービス工場や海外代理店が担当し、
指定サービス工場や海外代理店で売上計上）
- ・当中間期は、日本向けは増加、海外向けは横ばい。



門型油圧リフター：TB-1000

【門型油圧リフター】

- ・移動式クレーンや天井クレーンが使用できない屋内設備・
クリーンルーム・トンネルなどの特殊な環境においても、
重量物の搬入搬出・据付作業などを安全・効率的に実施。



(単位:百万円)

	18年度		19年度予想		タダノ (従来ベース)		Demag		増減率
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	
売上高	188,451	100.0%	228,000	100.0%	200,700	100.0%	27,300	100.0%	21.0%
営業利益	15,835	8.4%	10,000	4.4%	14,500	7.2%	-4,500	-16.5%	-36.8%
経常利益	15,604	8.3%	10,000	4.4%					-35.9%
親会社株主当期純利益	11,462	6.1%	5,000	2.2%					-56.4%

*19年度業績予想を10月30日付で修正しております。

1株当たり配当金	中間	13.00円	中間	14.00円
	期末	13.00円	期末	14.00円
	年間	26.00円	年間	28.00円

*19年度中間・期末配当には記念配当1円を含んでおります。

設備投資額	14,458百万円	11,500百万円
減価償却費	2,984百万円	3,800百万円
為替レート(USD)	110.43円	108.00円(下期)
為替レート(EUR)	130.42円	120.00円(下期)

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

*下期為替レート(EUR)を10月30日付で修正しております。

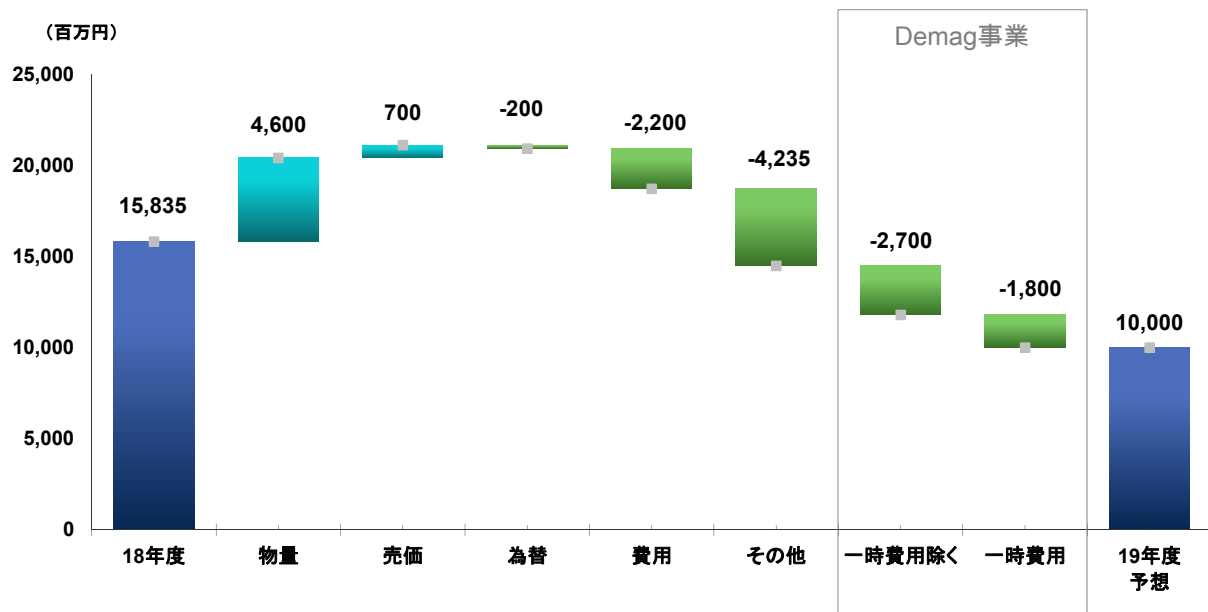
【19年度の経営方針】

- ①コアバリューの追求「安全・品質・効率」
- ②中期経営計画(17-19)最終年度の仕上げと次期中計の策定
- ③「赤い矢印」への集中と「黄色い矢印」への取り組み
- ④「青い矢印」の揺れへの備え(両様の構え)と競争激化への対応

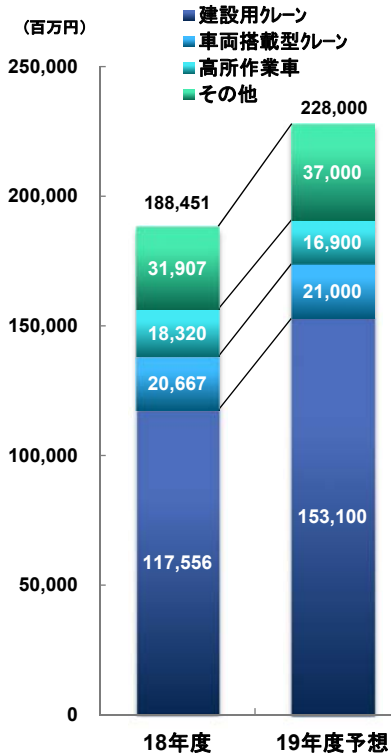
◆19年度海外売上高比率 55.5%

19年度業績予想(営業利益の増減要因)

売上が増加するも、費用の増加、Demag事業連結により、営業利益は58億円の減少。



19年度業績予想(製品別売上高)



(単位:百万円)

	18年度		19年度予想		タダノ (従来ベース)		Demag		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	117,556	62.4%	153,100	67.1%	131,150	65.3%	21,950	80.4%	35,544	30.2%
車両搭載型クレーン	20,667	11.0%	21,000	9.2%	21,000	10.5%	0	-	333	1.6%
高所作業車	18,320	9.7%	16,900	7.4%	16,900	8.4%	0	-	-1,420	-7.8%
その他	31,907	16.9%	37,000	16.2%	31,650	15.8%	5,350	19.6%	5,093	16.0%
合計	188,451	100%	228,000	100%	200,700	100%	27,300	100%	39,549	21.0%

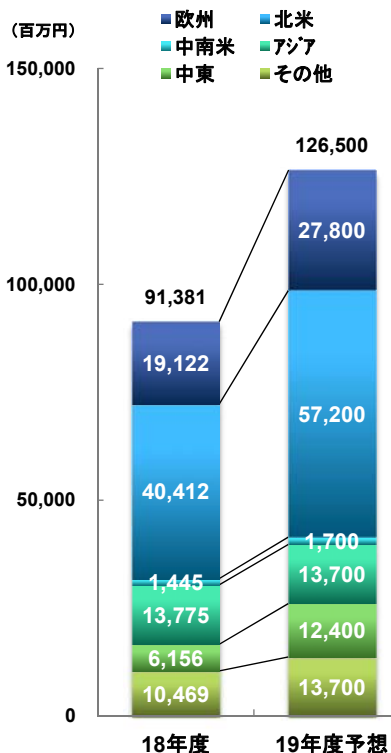
◆海外売上高比率 48.5% → 55.5%

※建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

	18年度	19年度予想	タダノ (従来ベース)	Demag	比較増減
日本	42,250	48,400	48,300	100	6,150 14.6%
海外	75,306	104,700	82,850	21,850	29,394 39.0%

*19年度業績予想を10月30日付で修正しております。

19年度業績予想(仕向地別売上高)



(単位:百万円)

	18年度		19年度予想		タダノ (従来ベース)		Demag		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
欧州	19,122	10.1%	27,800	12.2%	19,400	9.7%	8,400	30.8%	8,678	45.4%
北米	40,412	21.4%	57,200	25.2%	46,600	23.2%	10,600	38.9%	16,788	41.5%
中南米	1,445	0.8%	1,700	0.7%	1,600	0.8%	100	0.4%	255	17.6%
アジア	13,775	7.3%	13,700	6.0%	12,500	6.2%	1,200	4.4%	-75	-0.5%
中東	6,156	3.3%	12,400	5.4%	6,600	3.3%	5,800	21.2%	6,244	101.4%
その他	10,469	5.6%	13,700	6.0%	12,650	6.3%	1,050	3.8%	3,231	30.9%
小計 (海外計)	91,381	48.5%	126,500	55.5%	99,350	49.5%	27,150	99.5%	35,119	38.4%
日本	97,069	51.5%	101,500	44.5%	101,350	50.5%	150	0.5%	4,431	4.6%
合計	188,451	100%	228,000	100%	200,700	100%	27,300	100%	39,549	21.0%

*19年度業績予想を10月30日付で修正しております。

※左のグラフには日本を含んでおりません。
その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。

◆新工場本格稼働開始(2019年8月)

長期目標であるLE世界No.1の達成に向け、生産能力の更なる拡大が必要と考え、2016年11月に県より高松港香西(西)地区埋立地の工業用地を取得。2017年11月に第1期工事に着手し、2019年4月竣工。2019年8月本格稼働開始。



新工場を瀬戸内海から撮影(2019年5月末)

新工場の概要

名称	香西工場
所在地	香川県高松市香西北町
敷地面積	約20万㎡(約6万坪)
建物延床面積*	約4.7万㎡(約1.4万坪)
投資額*	約215億円
従業員数*	約200人

* 第1期工事(2017年11月～2019年7月) 第2期工期は未定



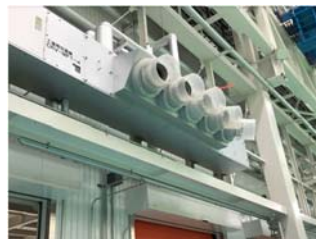
完成披露式(2019年8月29日)

◆生産能力の拡大

志度工場では、RC月200台の生産が限界。香西工場は、TC、大型RC(多軸車)を月40～50台生産する能力を保有。また品質向上のため、ブーム・シリンダ等の主要部品を海外生産拠点に供給。

◆コンセプト

「Next Generation Smart Plant ～人と機械が調和し、次世代につながるスマート工場」をコンセプトとし、無人搬送車や工場内の空調システム、その他最新鋭の設備を導入し、生産性の大幅向上を目指す。また完成した製品は、隣接する港からバージ船で神戸港や横浜港への輸送が可能。



空調システム



部品搬送機



バージ船



塗装ロボット

◆Demagクレーン事業の買収完了(2019年7月)

・取得価額: 約215百万USD(約236億円)

※取得価額は事業価値評価金額であり、クローキング時点の純有利子負債及び運転資金等の価格調整を行う予定

・Terex社のグループブランドの一つであるDemagクレーン事業は、100年以上の長い歴史を有し、大型のオールテレーンクレーンやクローラクレーンで世界有数のブランドとして定評がある。

新たにクローラクレーンを当社グループ製品のラインナップに加え、オールテレーンクレーン事業の更なる拡充を図り、幅広いお客様ニーズに対応することを目指す。

・買収完了当日に、ドイツにてDay1イベントを開催。



Day1イベントでの社長挨拶



イベント後の集合写真